

2020年3月23日 八ヶ岳白駒池にて (撮影 久世 浩)

1P 表紙、目次

2-3P 昭和30年代の登山

岡労 久世 浩

4P 登山時報拾い読み(2月号)

5P 理事会報告(第8回)

6P 行事予定・編集後記

昭和三十年代の登山

岡山勤労者山岳会 久世 浩

母親が古い写真を整理するというのでかたづけていたら昭和30年代のなつかしい登山の写真を発見した。現在92歳（2022年）になる父親が20歳代半ばから30歳代半ば頃までの写真だ。

年代は両親の記憶とアルバムの前後の写真により推定しているが、いづれの写真も昭和30年の新婚旅行の写真の前後に貼ってあったので、その時期らしい。

【大山】



大山頂上碑



大山3剣ヶ峰、大山4



昭和37年冬季6合目

【北アルプス表銀座】

コースは燕岳から槍ヶ岳、そして北穂高岳、さらに涸沢から上高地のルートだったらしい。1日目は当時、大天井には小屋がなかったので、西岳小屋まで強行したらしい、2日目は槍を越えて北穂高小屋まで足を伸ばし、3日目に上高地に下山したようだ。足は当時、岡山の田舎では登山靴など買おうにもなかったので地下足袋を履き、唯一の登山用具のピッケルは村の鍛冶屋に作らせた。

いづれにしても驚くほどの健脚者ばかりのようだ。父が語るには、信じがたいが別の年は、裏銀座コースの鳥帽子岳から槍ヶ岳まで1日で歩いたこともあると言っていたので車ばかり乗っている現代人とは、鍛え方が違うようだ。



槍ヶ岳頂上より前穂北尾根望む 足元はゲートルに地下足袋



槍ヶ岳山荘、現在と規模は変わらない

【北アルプス剣岳】

昭和 31 年か 32 年と推定する。ルートは室堂～剣岳～阿曽原～十字峠～阿曽原だったらしい。父の記憶では室堂に入るのに砂防工事の軌道に便乗して松尾峠を越えて入ったそうだ。美女平へのケーブルの開通が昭和 29 年で、さらに翌年には、バスが弘法まで開通しているのでそれより以前かとも思ったが、黒四ダムの工事が始まっていたそうだから昭和 31 年以降だ。さらに阿曽原から櫛平まで高熱隧道を通る軌道に乗ったそうだ。軌道は工事が本格化してから便乗が出来なくなったから、31 年か 32 年だろう。黒部川の水平歩道を、おっかなびっくり進んでいると、セメント袋（当時は 50 キロ）を両肩に担いだ人夫にじゃまだと、どやされたそうだ。



剣岳頂上より室堂



剣沢小屋付近から剣岳

【北アルプス白馬岳】

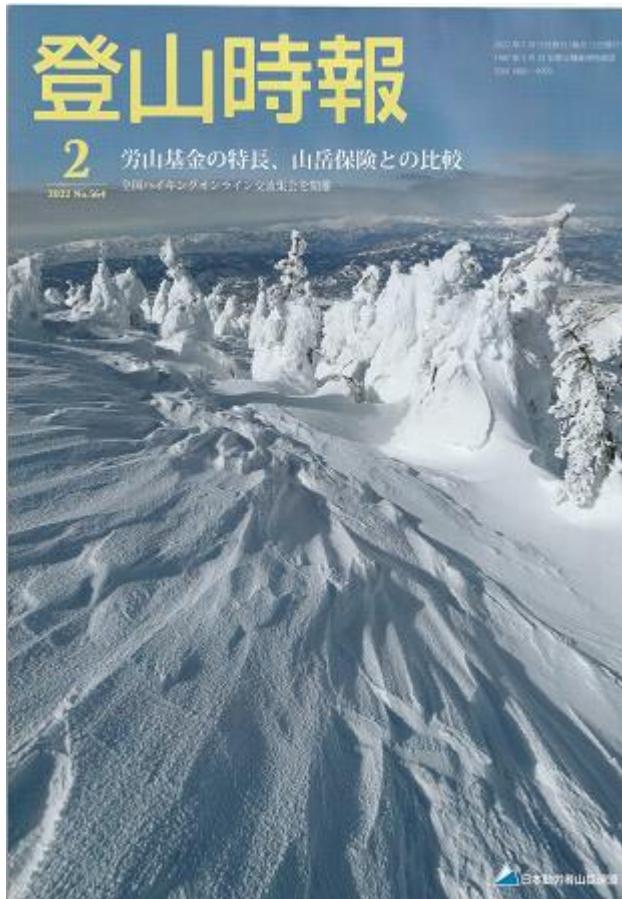
昭和 34 年と推定する。写真の中に測量の櫓と思われる物が写っている。白馬岳の一等三角点は選点が昭和 34 年 6 月 21 日、埋標が 7 月 15 日となっている。戦中、戦後の混乱で長らく手が着かなかった地形図の改測がやっと山岳地帯まで及んだと思われる。改めて写真を見直すと急速に装備がよくなっている。昭和 31 年のマナスル登頂を契機に空前の登山ブームとなって登山用具が出回り出したようだ。地下足袋がキャラバンシューズに進化しているが父は相変わらず軍靴の編上靴だ。



白馬岳山荘



白馬岳より剣岳



- 01 連載 中国の青いケシ探訪記 松本秀和
02 新シリーズ コロナ禍で登山環境はどう変わったのか
04 連載 山を楽しむ写真講座 宮本宏明
08 連載 白神便り 原田勇成
10 ふみあと 新しい可能性を切り開いたミニ講習会 石川友好
11 第35期定期総会 第1次議案抜粋
14 全国ハイキングオンライン交流集会を開催
16 労山基金の特徴、山岳保険との比較
21 連載 子づれ山さんぽ 武井真理
22 連載 アドベンチャートラベル 大蔵喜福
24 連載 山登りのためのやさしい気象講座 野尻英一
26 連載 事故防止は仲間の知恵で 冨田吉継・中川和道
28 専門委員会活動報告
31 全国連盟の活動
32 マンガ フウフウハアハア 村松孝一

- 33 インタビュー ひと 杉山克行さん
34 連載 地図読み迷人 宮内佐季子 小泉成行 監修:村越真
36 連載 会・クラブ紹介 大宮勤労者山岳会
38 ミニガイド 沙美アルプス
39 筑井孝子のちょっと人物・物をうまく描こう あらかると 石井光造
40 連載 山の自由帳 篠塚優
労山基金の特徴、山岳保険との比較
労山基金とは
民間保険と共済制度

山岳保険は、山岳遭難事故発生時に要した「救助捜索」と山行中の転倒・滑落などによるケガの治療に要した「入通院」、「死亡・後遺障害」等に支払われるものである。入通院費用は、一般的には「国内旅行傷害保険」でカバーされている。

山岳保険には、保険業法に基づき提供されている「民間の保険制度」と「相互扶助の共済制度」がある。どちらも個人が保険会社・・団体と契約を結んだ(掛け金を支払った)時点から、約款に基づいたサービス内容が有効になる。掛け金は共済制度のほうが少額であることが多い。

以下、登山時報を購読してください。

2021年度第8回理事会報告

2022年2月10日作成

日 時：2021年1月26日（水）19:00～21:00

場 所：ゆうあいセンター 会議室

出席者： 12名 欠席者： 1名 全： 13名

1、報告

（1）会計報告（久世会計部長）（各理事に送付済）

➢全国連盟から安全対策基金150,000円収入、吉備路全山縦走大会協賛金50,000円支出。

（2）気象講座 2022年1月15日（土）（加治・小林）

- ・9:00～観天望気（高野ちびっこ広場）、13:00～座学（生涯学習センター）

➢参加者43名（内座学2名）＊全体的には良かった。当日参加の人が各会から1名は下見に参加すべきではとの意見。県連としての協力体制をとりましょう。

2、議題

（1）50周年記念事業計画について

イ) 記念誌の編集・発行＝記念誌委員会

（谷川機関紙委員長）

- ・第2回記念誌委員会は10月30日（土）13:30～ゆうあいセンターで開催
- 記念誌は3月末までに発刊予定 → 完成は次年度に。
- ・詳細分担、担当者決定。
- ・労山おかやま掲載記事より、選定して載せる。
- ・ページの隙間にスケッチ等を入れる。→ 裏表紙スケッチ SCMC スケッチサークルに依頼。
- ・1月7日に第4回会議をZOOMで開催（引き続き2/7に開催予定）

➢各会の集合写真依頼中。

ロ) 記念講演会（小林副会長）

・山本正嘉先生講演

タイトル「安全な登山のための体づくりと山での疲労対策」、

オプション：実技「登山体操」

- ・3月5日 10:00～岡山国際交流センター8階イベントホール

（会場は9～13時まで借用、事前準備・片付けは理事全員で協力を。）

- ・募集案内は労山おかやま1月号・2月号に掲載

- ・1月24日（月）19:00～50周年記念講演会実行委員会開催。（各会委員9名出席）

➢2月17日（木）19:00～実行委員会ZOOMで開催、講演会実施の方向で、まん防が終わ

るかどうかで判断する。

（2）安全登山講習 教育委員会（加治）

イ) 雪山講習 2022年2月19日（土）・20日（日）3月26日（土） 大山 講師 近藤邦彦氏（加治）

- ・労山おかやま1月号掲載
- 2月…ルートファインディング・ラッセル技術、ビバーク技術
- 3月…ピッケル・アイゼンワーク

（3）全国連盟行事について

- ・2月19、20日 全国連盟総会 岡山県連から3名参加予定。

➢ZOOM参加OKであれば出席する。

（4）県連会費について

➢県連盟費（120円/月と100円/月）2案で予算案（たたき台）を作成し検討する。

（5）総会準備のための専門委員会の開催

3月までのできるだけ早い時期に開催を

➢2月2日19時～遭難対策教育委員会、2月7日20時～機関紙委員会

（6）次号「労山おかやま」の編集案提案と記事原稿分担（谷川機関紙委員長）

編集案に沿って協議。原稿締め切り 2月15日（常に印刷の1週間前）印刷は 2月22日（火）

（7）第7回吉備路の山全山縦走大会（盛重理事）

- ・3月20日（日）開催 1,000名参加者予定
- ・チラシの参加申込書をハガキに貼って申し込む。ネット会員の方は、PDFでダウンロードして。

・12月10日実行委員会開催 ボランティア132名分担 バッヂ、タオルデザイン決定。

➢1月28日臨時実行委員会開催 → 2月4日ハガキ申込者に発送する。

今後の理事会日程

2022年 2月22日（火）19時00分より
ゆうあいセンター（きらめきプラザ内）

2022年 3月23日（水）19時00分より
ゆうあいセンター（きらめきプラザ内）

県連・各会'22年3月～年4月行事・山行予定表

22年3月 (太字は県連行事)

22年4月 (太字は県連行事)

曜	予定	曜	予定
1 火		1 金	本宮高倉山(KHC)
2 水		2 土	武庫川渓谷と旧福知山線跡(SCMC)
3 木	友ヶ島(～4)(SCMC)	3 日	
4 金		4 月	
5 土	県連50周年記念講演(講師:山本正嘉先生)	5 火	
6 日	岡南の山縦走(SCMC)、擬宝珠山～象山(KHC) 金ヶ谷～朝鍋鷺ヶ山(みまさか)	6 水	吉備路(KHC)
7 月		7 木	
8 火		8 金	
9 水		9 土	白石島(SCMC)(中止)
10 木		10 日	吳婆々宇山(SCMC)、向山連山(KHC)
11 金	深山公園(KHC)	11 月	
12 土		12 火	
13 日	大山周辺:雪山講習(みまさか)、鷺ヶ頭山(KHC) 総会(THD)、東お多福山・荒地山(NHC)、 天狗山/柿本公平さん追悼登山(SCMC)	14 木	
14 月		15 金	
15 火		16 土	
16 水		17 日	遙照山(THD)、中国自然歩道③(SCMC)
17 木		18 月	
18 金		19 火	
19 土	須磨アルプス(KHC)	20 水	
20 日	第7回吉備路の山全山縦走大会(中止)、 大山周辺:雪山講習(みまさか)	21 木	
21 月		22 金	
22 火		23 土	英彦山(～24)(SCMC)、船通山(KHC)
23 水	県連理事会	24 日	
24 木		25 月	
25 金		26 火	雄鷹台山(SCMC)
26 土	県連安全登山講習:雪上技術訓練	27 水	
27 日	鬼ノ城山(みまさか)、黒滝山～白滝山(SCMC)	28 木	
28 月		29 火	牧野公園・中津渓谷(SCMC)
29 水	女木島(KHC)	30 土	
30 木			

＜編集後記＞

【徒然草第117段】に「よき友三つあり。一つには物くるる友、二つにはくすし(医者)、三つには知恵のある友。…」とあります。実はこれ【論語:李氏第十六】の「孔子曰わく、益者三友、損者三友、直きを友とし、諒を友とし、多聞を友とするは益なり。便辟を友とし、善柔を友とし、便佞を友とするは損なり。」…(訳:交わって益する友に三種類あり、損する友に三種類ある。正直な人を友とし、誠実な人を友とし、知識の豊かな人を友とするのが益。体裁ぶる人を友とし、人ざわりがなくて誠実味のない人を友とし、口先ばかりのお調子者を友とするのは損だ。)…を受けての言葉ですが、＜自分が、「よき友」になろうとしたのか? 相手を「よき友」にしたかったのか? >を書いていないところが、一つの【ミソ】なのでしょうね。

私たちが「登山をする理由」は、そんなことで悩まない…“自由な世界への憧れ”で良しとして、人生を大いに楽しみましょう。(一)